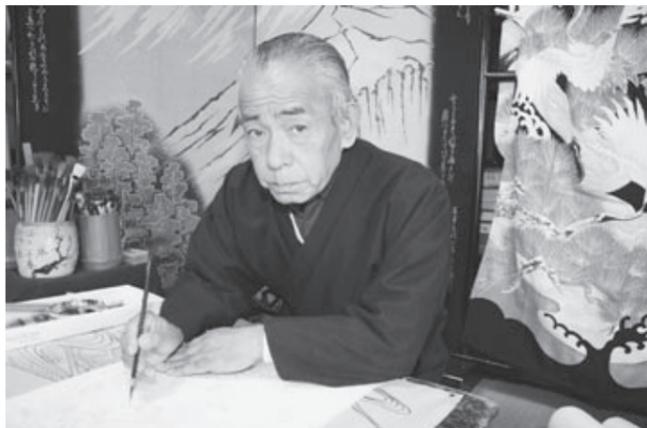


▲(上)匠の自信作。「松に鶴四海波黒振袖」  
(下)木綿地染屏風「慶鶴」



▲生地を下書きをする匠。この後、「糊置き」という下書きの線の上に糊をのせる作業が待っています。

小学校で伝統文化を勉強する会で講師を務めたことや、本宮と白沢で地元の方に染物講座を開いたことが思い出に残ると語る。  
人との出会いに感謝し、日々技を磨くことを忘れない匠であった。

友禪とは、創始者の名前で、糊を使って染めない部分を作る独特の防染法で描く染めものである。女性の方なら「友禪」と聞いて、京や加賀と思う人は多いと思う。  
鎌田家はもとと呉服商を営んでいたが、昭和の初め頃、鎌田さんの父親が京都で友禪の修行を積み家業とした。鎌田さんは戦時中ということもあり、京都での修行はかなわなかったが、子どもの頃から絵を描くのが好きだったこともあり、父の下で修行を積み、この世界に入った。  
鎌田さんが作るものは、江戸袷、訪問着、神社の幟、紋幕、暖簾、印袴纏など幅広い。また、完成までには、図案・下絵・糊置き・伏せ糊・地染め・蒸し・水元・挿し友禪・金箔・刺繍などのいくつもの行程を経る。完成には半年かかる物もあるという。  
「とても神経を使う仕事。集中することが大事。自分の仕事に自信をもつてとりかかると」と職人気質をのぞかせる。また「めでたい時の着物は、着る人の幸せを祈って制作にあたる」という。

# 匠

TAKUMI

今回ご登場いただくのは、友禪と呼ばれる技法で着物などに絵を自在に描く手書友禪染模様の鎌田博喜さんです。京友禪には手書き染めと型染めがあり、手書染模様の、東北では鎌田さんただひとり。この本宮の地で、京友禪の伝統の技を守り続けている匠をご紹介します。

**手がき染 染匠 鎌田**  
手書友禪染模様の師  
鎌田博喜 (号 比呂喜)  
(本宮字大町)  
☎34-2837



# みんなのひろば

**今日の人**  
国分 花子さん  
HANAKO KOKUBUN  
(鎌沢字城ノ内)

国分さんは絵手紙のほか、生け花を趣味とし、「最近風邪をひいた記憶がない」くらい健康が自慢と言います。地元のバレーボール愛好会に所属し、楽しみながら身体を動かすことが好きと言います。  
特技は「旦那さんの教育」だそうで、お酒も旦那さんに負けないくらい飲めると笑って答えていただきました。  
国分さんは、いつも明るく元気に、そして何よりご家族を大事にされている方でした。最後に「若い方には地元に残って盛り上げていただきたい」というコメントをいただきました。



## 私の随想録

### 「出会いは人生の宝」

今年で私は45歳になりました。まだ人生の半分しか生きていません。双子の息子と娘(高校3年生)、末っ子の娘(甘えん坊の中学3年生)、旦那(同級生、年下、1か月)、義母(私の30歳年上の先輩)、我が家の家族構成です。  
元気が無い時、子どもたちが「明るく、明るく、元気が」

を出して!!」と励ましてくれました。そんなやさしい家族です。  
10月の中旬に、白沢中学校の学校祭へ行ってきました。子どもたちの素晴らしい劇や歌声は、私に若いエネルギーを与えてくれました。「やれば出来る、諦めない」心に響く言葉でした。この様な素晴らしい白沢中学生と出会えました。  
どこに出会えばあるか分かりません。ふと何気なく出かけた先でも出会いがあります。中学校で出会った子どもたち、学校祭を成功させようと一生懸命の姿に感動しました。  
10年前に私の人生をも変えた方に出会いました。その方の勧めで絵手紙に出会いました。全く絵の描けない私ですが、絵手紙になると魔法にかかったように書けます。  
何気なく生きていた人生ですが、どこに出会えばあるか分かりません。その出会いが人生を変えるかもしれません。今、こうして楽しく生きていられるのも家族や周りの方々に出会えたからだと思えます。その方々に感謝し、これからも出会いを求め、楽しく生きていきたいと思います。  
◇◇◇  
来月は、富樫秀一さん(本宮字兼谷平)の予定です。

FM Mot.Com 秘情報  
あの声は、私です...  
パーソナリティ紹介  
◆ラジオネーム: けいこ  
◆本名: 渡辺 恵子  
◆出身: 本宮市  
◆趣味: 絵を描くこと  
◆担当番組: けいこのマイミュージックステーション (毎月第2、第4木曜日 午前10時~)  
◆リスナーに一言: 「あたたかいお味噌汁のような心を届けたいと思っています。どんな事でも、どんな曲でもリクエストくださいね。お待ちしております。」

ゲーム形式を中心に行っています。またオフシーズンにはジャグリングやラダーなど子供たちの運動神経を伸ばすための運動も行っています。他県ハンドボールスポ少との楽しい交流や、また時には? 厳しい練習の時もあります。昨日行われた東日本大会でベスト4に入った時のチームの喜びは格別でした。  
ハンドボールは一度体験してみれば「絶対に面白いスポーツです」皆さんも一緒にナイスシュート決めてみませんか。是非一度見学に来てください。



市内で活動するスポーツ少年団を紹介するのは、「本宮ハンドボールスポ少」です。  
平成7年に開催された第50回国民体育大会(ふくし

こどものひろば  
「本宮ハンドボールスポ小」  
登録者数: 30人  
活動日: (木曜日) PM6:00~8:00  
(土曜日) PM5:00~8:00  
総合体育館  
連絡先: 兼谷 典寿  
電話: 33-4141

ま国体ハンドボール競技)を契機とし、平成4年「本宮ハンドボールスポーツ少年団」を創設しました。当時県内では唯一の少年団ということもあり、団員集めについては今でも頭を悩ませられる日々があります。あたりまえのように出てくる「ハンドボールってなあに?」という子供たちの声、説明に困惑する保護者の皆さんの顔、色々ありますが現在市内の4つの小学校から団員30人で、週2回(木曜18時~20時、土曜17時~20時)高木の総合体育館で元気に練習しています。  
ハンドボールは19世紀末ドイツでサッカーを楽しむ男子を見て女子もやりたい、「それでは女子はボールを手に持ちなさい」という監督の発想がハンドボールの発祥といわれています。当時は11人で行われていましたが、現在は7人で前半15分、後半15分(小学生時間)の間に多く得点をしたほうが勝利というスポーツです。  
当団では団体行動、挨拶などハンドボールを通じて子供たちに様々な事を教えていきたいと考えています。練習の前半はハンドボールの基本である走る、投げる、飛ぶ(ジャンプ)を行い、後半は